



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒーアワ : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫 ■ 「風邪は身体の大掃除」

作家、五木寛之著の『きょう一日』(徳間書店・二〇一一年)に、「風邪と下痢は身体の大掃除」という、興味深いコラムがあった。以下、ご紹介しよう。

「野口晴哉(はるちか)さんが書かれた『風邪の効用』という本に、風邪と下痢は身体の大掃除だ、という話がある。人間は、身体のバランスが崩れて、不安定になっているときには風邪をひいたり、下痢をしたりする。風邪をひくと熱が出て、咳や鼻水が出る。悪いものを食べて、胃腸が荒れているときには下痢をする。これは身体が体内を掃除しているからであり、風邪をひきかけてゴホンといったらありがたいと思え、という説でした。それ以降、たまには風邪をひいてもいい、という考え方をするようになりました。私は、四、五日で風邪がスツと治ったあとは、風邪をひく前よりバランスが取り戻された状態なので、むしろ前よりも爽快感すらあります。しかし、これをこじらせて、一週間や十日となるとよくない。体力も消耗し、不快感が残ることになります。

風邪をひいたときには、無理やりに熱を下げたり、痛みを抑える処置はしないほうがよいようです。ひきはじめは風呂にはいってもかまわないし、菓なんか飲まなくていい。治りかけたときに難しいので、そこで十分に気をつけよ、というのが野口さん説です。ですから、あまり長引かなければ、年に二回か三回は風邪をひいたり、時には下痢をするのも悪くない。鈍感な身体は、風邪をひかないで安心してると、どこかで大きなつまずきにあうかもしれません。風邪と下痢は身体の大掃除。これはなかなかいい考えだと思います。もともと人間が本来もっていたはずなのに、便利なものに慣れて、忘れてしまった感覚を取り戻すことが、身体そのものの健康の維持につながるのかも知れません」

風邪を引くというのが身体の大掃除だと言うのなら、これは良いことになるが、これはそれまでの私たちの考えを一変させる「コペルニクスの転回」ではないか。実はそのような世界が「山上の垂訓」で開口一番イエス様の言われた「心の貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである」(マタイ五・3)という教えである。一体だれが心貧しい者がさいわいと言えるだろうか。心が豊かにさせられて初めて人はこの世に対処できるようになると思うのである。だが、それだと人を傲慢にする。それが世の常である。一方、心貧しく、主に信頼するしかない人には、主の憐れみが注がれるので、さいわいなのである。人間の価値観にメスをあてて、心の大掃除するのが福音である。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

